

月輪寺の御庭前、於て法王親王の御歌

月輪殿下

姉へ云々行別れぬと云ふに云々

法然上人

會者定難人云々一云々

親意聖人

別れ路の道云々一云々

くさる有阿海を
くさるハ世の音に急
くさる依書懐中

兼久三幸三月七日
以信五河利

卿
 吉光院様

親歆焉聖人拔之

沙袋操方 沙返身

命あり
御書見奉る
事

満足の事

ふむたきとくをみるの

花の百鳥風にささるる

同
と
牧
ハ
志
ハ
の

五、五餅を初初とよめを遣遣

きしめうしに根を

なれりやあのことゝ家へ

五月
くわんとてふは
北風

うしへそ一羽にきり

に祿名を佛アふ又そ

元智者達多に能に佛に

にほけんこさうくひる

返すくも一言も沙汰入る

うさひ差すもにあくゆめ

うんちうこさうゆりこし

あささやうけりすうみれに

日夜所ううこしハ佛の法

さううとほううこしハ

けくハわてたさう村屋

アハく中門に御母様

う種々合終くいつ極楽に

て御對面ありは若はさう大

深き事ありあつて

清くさういつ報とるハこ

めよ斗極星の御對面

うさひさう



新羅一任大菩薩摩訶薩

土三教經を以て末代あるを

大聖法華菩薩同位のむじ

十方諸有衆生此の如と起

くまふれをけみ多れ候

就てある時諸菩薩なり

あんまゝして法華菩薩

の印名を改め南無阿彌陀

佛と心算せとめたりあり

毎一に口をてて法生地

定するあやされ法華聖人

の所言に心算は日れく極樂

地せんまゝなり信心定人

あぬれハ月中に母衆あり

生ず信心定定せられその

せんぢりしとされは

女人此れを諸佛にまかされ

ありそなハ九万九千の悪陀

命一車
八如米

耐老風流生也。

光明なり

あそめりて
族

初次正定取此位に

定中女孫也

五ノ
口
根
に
ん
と
ん

あふに
性生為

八
 行
 看
 の
 ち
 っ

ら
い
の
め
／
五

一
之
順
只
海
院
水
其

他方中邪の石思海

信

陸下
五
三

夫尚流安ん心義
といふ智恵也ん
茂いらい男女貴
賤と論せ次る
事ハ遠近不若
凡吏るれと
機と本とす
尚も次休陀如來
ちりと知り
もの難り
なを捨てつ
専に休陀に皈

親書寫聖人様

御母君様へ

御女弟法延年

ふんらんふんらん

清時園系常法大玉築

茶山乃ふもと板敷山

兼久之幸己三月七日に大和

玉守ふの郡に由己

御母君様は此を御内覧

の御書写

ふんらんふんらん

てさけけ物と法生と

了大事にて今生地

栄花いふれ何ふるに

ゆふ名づははつる雲の
ことし

年月はる羽ふたやうか
ことし

命は凡そあちりちりそれ
いめろ 名 王

身許ふつふく山んをうす
身 許

に四大海のこゝ常は是と
かい ほん せん

くさんしん陀ろむねはく
ほん せん

さいむさんだふせうふん
さいむ

勝もたけけつんため
たい け

大物名もあふは中
せい ぐん ちゅう

ちく称名ともみか
ちく しょう とも

むじやれはあはれを称し
あんと せう

あふる一都は差ある
あふる ひと ちよめ

ちうれはるをたふす
ちうれ ちよめ

あさる一都は差ある
あさる ひと ちよめ

ともちる一都は差ある
ともちる ひと ちよめ

ふれはる一都は差ある
ふれはる ひと ちよめ

あふる一都は差ある
あふる ひと ちよめ

すれぢやハ九方九子此鬼神
炭の肉一斗して佛法の満
るけとぬい又ん喰人
むじに物を施して親れ
念りに新寝すつと難終と
中ハ証を清むの法を
法陀とたのみたの一念れ
不とぶんとやいまゝか
の事ハ教訓にそるるいと
清く清く一法に新
ゆとやて余神作佛に
御名を中念佛して唱ふ
孔将新くしつ之信め
上ハ祇名余神やん
如母の御母を存し曰
行めしつみとくけ懐ひ
孔将三つとやん
中通つとやんことあん

乃に^こ是^上き^あ八^ろ方^ろ家^ろ也^ろ要^ろ陀^ろ沙^ろ

身^ろ地^ろ少^ろに^ろす^ろむ^ろ衆^ろあり^ろ

諸^ろ佛^ろ乃^ろ願^ろに^ろし^ろれ^ろり^ろ能^ろる^ろ

を^ろ衆^ろく^ろと^ろ法^ろ陀^ろ如^ろ來^ろ而^ろる^ろ

乃^ろを^ろ願^ろを^ろれ^ろる^ろ女^ろ人^ろ法^ろ佛^ろ

光^ろ乃^ろ大^ろ勢^ろと^ろせ^ろる^ろあ^ろる^ろ

乃^ろろ^ろあ^ろる^ろこ^ろと^ろ強^ろく^ろの^ろ難^ろろ^ろ

難^ろ終^ろれ^ろる^ろを^ろ捨^ろて^ろ三^ろん^ろに^ろ

こ^ろこ^ろこ^ろこ^ろ今^ろ更^ろに^ろ大^ろる^ろ

乃^ろ生^ろれ^ろす^ろけ^ろな^ろる^ろと^ろ

一^ろ切^ろの^ろ肉^ろに^ろは^ろれ^ろる^ろ一^ろ定^ろと^ろ

乃^ろの^ろ命^ろの^ろあ^ろる^ろん^ろの^ろ身^ろろ^ろ

衆^ろ名^ろ念^ろ佛^ろに^ろは^ろゆ^ろる^ろん^ろち^ろき^ろを^ろ

衆^ろ定^ろ乃^ろ法^ろ義^ろに^ろは^ろる^ろあ^ろる^ろ

云々し甲は法陀佛之南

吾は父初是安ん弥陀佛是

信心なり宿長開教して

往生ハ法定うたしちく

信心改定アなりる生法

陀と頼む様をうく五給

しめして万言万行なりし

やれ切情とある人たふに

ふ甲は法陀佛の家

が往生めせんせん也南無

二字ハ只れなりおむ五ん

何れも併はれせんし信心

うりたのむ様と法たりけ

ととさして様法一祥の

南無は法陀佛なり

世に郭の余日に腹をた



あつては陀の誓願と

うけあやうげやる人

まゝ世に万知にとあし

かゝるあまのうらみのを

つゝあんにすうに人

大聖人の御恩ともたすけ

の御恩は命をかりに

報謝の念拂とアるく

是分余はそんなせうに

心安れはめい又事

生におく称名一行に切

らんをきやうとらん

命あつては命を

たいめんすの命を

海にうそつおのり

うそつおのり

海にうそつおのり